

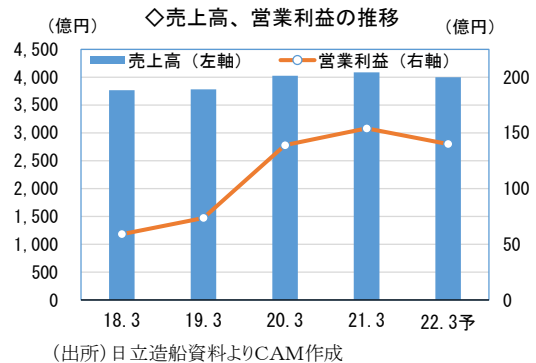
企業ニュース 日立造船

(東証1部：7004) <https://www.hitachizosen.co.jp/>

作成者：奥村義弘

クリーンエネルギーへの取り組みを強める

1881年創立。日本初の鋼船やタンカーの建造など日本の造船業の成長をけん引。また造船技術を生かし、橋梁、船用エンジン、幅広い分野の産業機械やプラントなどの事業も展開してきた。2002年に造船事業を分離。現在は、環境・プラント事業（21.3期売上高構成比66%）でごみ焼却発電・リサイクル施設、水・汚泥処理施設、バイオマス利用システム、海水淡水化等各種プラント、電力卸売りなど。機械事業（同25%）で船用原動機、自動車用プレス機械、ボイラ、脱硝触媒、原子力関連設備機器、プラスチック機械、食品機械、医薬機械、精密機器、エレクトロニクス・制御システムなど。インフラ事業（同7%）で橋梁、水門扉、煙突、海洋土木、シールド掘進機、防災システム、風力発電など。その他事業（同2%）で運輸・倉庫・港湾荷役などを手掛ける。



受注トレンドは良好、環境分野での活躍が期待される

22.3期の会社計画は受注高が4,500億円、前期比5%増、売上高が4,000億円、同2%減、営業利益が140億円、同9%減。受注高は環境が3,150億円、同4%増、機械・インフラが1,250億円、同7%増、その他100億円、同19%増と各事業で増加を計画。営業利益は減益計画、減益要因に大型工事や好採算工事の減少、前期のプレス機械・インフラ等の受注不振を挙げる。一方で、増益要因として100%子会社で、ごみ焼却発電プラントのInovaグループの収益性改善などを挙げる。

今期はUAEで世界最大級のごみ焼却発電プラントの受注を見込む。24年7月完工予定で、プラント建設に加え、運営にも参画予定。新技術では洋上風力発電も有望。青森県、秋田県、北九州などの案件に参画、海洋構造物で培った基礎構造物の製作技術を有する。全固体電池では最高クラスの1000mAhセルを開発。宇宙航空研究開発機構（JAXA）と共同で21年末より宇宙環境での実証試験を実施する。2030年に向け「サステナブルで、安全・安心な社会の実現に貢献するソリューションパートナー」を目指し、営業利益率10%など利益率の向上にも注力する。

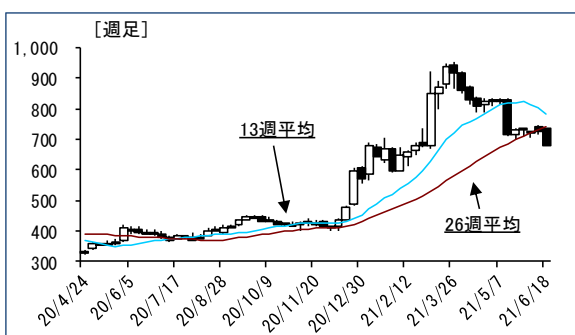
[株価動向・投資判断]

環境関連を軸とした成長ポテンシャルの高い企業として存在感を高めつつある。

<7004 日立造 業績：日本基準>

[今期予想の配当金は発行会社予想]

	売上高	営業利益	経常利益	当期利益	1株利益	1株配当
	百万円 (伸び率)	百万円 (伸び率)	百万円 (伸び率)	百万円 (伸び率)	円	円
20.3	402,450 (6)	13,891 (89)	9,429 (40)	2,197 (▲60)	13.0	12.00
21.3	408,592 (2)	15,396 (11)	11,792 (25)	4,258 (94)	25.3	12.00
22.3 予	400,000 (▲2)	14,000 (▲9)	9,000 (▲24)	5,000 (17)	29.7	12.00



[主要株価指標] (売買単位：100株)	
株価 (2021/6/18)	680 円
年初来高値 (高値日)	956 円 (21/3/22)
同 安値 (安値日)	565 円 (21/1/4)
予想 P E R (22.3 予)	22.9 倍
1株株主資本 (PBR算出用)	749.6 円
P B R	0.91 倍
予想配当利回り	1.76 %
(1株当たり配当金年12.00円)	
R O E (21.3)	3.5 %
発行済み株式数	17,021 万株